

同窓会会報

第89号

昭和43年6月1日
発行所 茨城県茨城県
内原町緑旗5965
鯉淵学園同窓会
印刷所 新いばらきタイムズ社

鯉淵学園創立二十周年

記念事業報告

母校鯉淵学園の創立二十周年を記念して、学園発展のための「大事業の実施を決定したのは、昭和三十九年十一月の第六回同窓会大会でした。席上具体策の検討、事業推進を委任された執行部は、その後しばしば学園当局とも協議して、次のような記念事業を計画し、四十年一月全国の会員に創立二十周年記念事業趣意書を発送して、この記念事業はスタート致しました。

- 一、鯉淵学園二十年史の発行
 - 二、支部組織の強化を中心とした同窓会組織活動の強化
 - 三、鯉淵学園会館建設運動の展開
 - 四、二十周年記念同窓会大会の開催
- その後も再三にわたって学園当局、さ

らに農民教育協会当局とも協議を重ねてゆくうちに、本記念事業は単に同窓会のみの事業としてではなく、学園も協会も共に協力をあげて推進してゆくことになり、四十年六月には新たに鯉淵学園創立二十周年記念事業委員会（会長・東相情一）が設置され、事業計画も次のように改められました。

- 一、記念会館の建設（募金目標三、〇〇〇万円）
 - 二、記念史の編纂
 - 三、記念式典
 - 四、記念植樹
- しかし、記念事業遂行に当たって、多くを期待した農業団体、特に全国段階が上記計画に対して極めて特色を示したため、八月に入って早くも行きすぎまるとな

り、記念事業の規模は縮小のやむなきに至りました。結局九月に入ってから下記のような内容で関係方面に協力を依頼致しました。

- 一、記念式典（四十年十月十六日）
- 二、記念史の編纂（式典当日発行予定）
- 三、記念会館建設基金の造成（募金目標総額六二六万円、うち同窓会分組二二二万円）

そのうち、記念式典だけは四十年十月

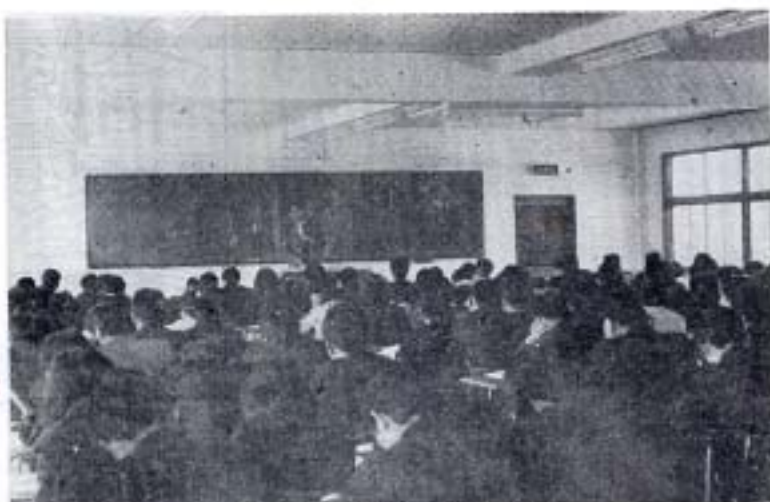


記念会館正面

予定通り済ませることが出来ましたが、他の二大事業は遅々として進まず、特に学園の業務執行体制の刷新、学園および協会の業務執行体制の一元化、中央協同組合学園など、同窓会にとっても極めて重要な問題とも取組むことになり、多くの月日を費すことになってしまいました。

ようやくにして、四十年十月発行予定であった記念史も昨秋出版し、記念会館も規模・内容ともかなりの縮小変更はありましたが、本年三月教室として竣工、四月六日には教室建設に当たって直接協力を下さった農林省、茨城県、全国農業団体、県農業団体関係者、建築業者、設計士、同窓会役員および支部長、自治会役員、内部職員など約五〇名を招待して盛大に竣工式が行なわれました。記念植樹も進められ、同窓会支部組織活動の強化は、本記念事業の成果そのものが如実に物語っているといえる支えないうえです。

以上のように、二十周年記念事業を計画してから爾



記念会前大教室【3周年記念】

同窓会扱い記念事業募金収支

| 項目 | 年次 | | 合計 |
|-------|----------------|----------------|-----------|
| | 40.10 ~42.9 | 42.10 ~43.4 | |
| 寄付金 | 1,296,648 | 379,735 | 1,676,383 |
| 20年史代 | 272,500 | 55,200 | 327,700 |
| 合計 | 1,569,148 | 434,935 | 2,004,083 |

支出

| 項目 | 年次 | | 合計 |
|-----|----------------|----------------|---------|
| | 40.10 ~42.9 | 42.10 ~43.4 | |
| 印刷費 | 107,200 | 55,100 | 162,300 |
| 通信費 | 94,975 | 27,280 | 122,255 |
| 会議費 | 5,630 | 0 | 5,630 |
| 旅費 | 57,000 | 0 | 57,000 |
| 事務費 | 22,090 | 10,146 | 32,236 |
| 人件費 | 21,150 | 21,800 | 42,950 |
| 合計 | 308,045 | 114,326 | 422,371 |

昭和四十年以来四十三年四月までに応募下さった同窓生数は同窓会扱い一、四二九名、総務課扱い六五〇名（道教学）合計一、九七九名で、同窓生総数三、〇六九名に対して六四・五%に達しました。

同窓会扱いの収支は上表の通りです。

四、事業資金
(1) 同窓会扱い事業資金
募集収支

昭和三十九年十月（第七回）、来週三十九年、四十年十月（第八回）の大会も包括して同窓会の総力をあげ、この事業を推進して参りました。事業内容において、当初計画に及ばぬ点もありますが、二十周年記念事業に託した私どもの企画・学園の将来を考え、学園の今後のあり方を明確にし、母校発展のための一大布石にする一助は成就されたものと確信致しております。これひとえに全国の会員各位、打って一丸となつての御協力のままのであります。ここに経過のご報告と併せて、鑑んで感謝の意を表します。

事業概要

一、記念式典の挙行
昭和四十年十月十六日熊河学園講堂において農林省、茨城県、関係農業団体の代表者、同窓生など約二五〇名の来賓を迎えて挙行された。式典後、図書館前の広場で祝賀パーティーが行なわれた。

二、「熊河学園二十年史」の刊行
学園教職員によって編集委員会を組織し、これが中心になって編集し、全教職員が分担執筆した。内容は沿革、教育の理念と実践、農場の運営と実践、対外教育活動、同窓会の組織と活動、学生時代などからなっている。

発行日昭和四十二年十一月二十三日
(熊河学園創立記念日)
装丁：六版、厚表紙、箱入り
頁数：三九六頁

記念史は農林省、関係農業団体、同窓生等広く関係方面に贈呈された。

三、記念会館の建設
会館は昭和四十二年九月二十七日着工

四十三年三月十五日完成した。完成の記念会館は鉄筋コンクリート二階建、総面積六三三・八平方メートル（一九二坪）であつて、その内訳は、

大教室 一室 一九八・〇平方メートル（六〇坪）
中教室 一室 一五八・〇平方メートル（四八坪）
小教室 二室 一五八・〇平方メートル（四八坪）
廊下便所等 一一八・八平方メートル（三六坪）

なお、四月六日には農林省、茨城県、関係農業団体、同窓会等の代表者を招待して、盛大に竣工式が挙行されました。

記念事業収支決算

(自昭和40年4月至昭和43年3月)

(△印 予算額に対し減を示す)

収入の部

| 科 目 | 決 算 額 | 予 算 額 | 増 減 | 備 考 |
|----------|------------|------------|-----------|--|
| | 円 | 円 | 円 | |
| 1 補助金 | 15,631,000 | 15,631,000 | 0 | 農林省・茨城県の施設費補助金 |
| 2 寄付金 | 5,721,030 | 6,200,000 | △ 478,970 | 中央団体、都道府県農業団体、市町村農協、同窓会々員(含通信教育学生)在学生父兄等 |
| 3 同窓会繰入金 | 627,200 | 250,000 | 377,200 | |
| 4 協会繰入金 | 759,730 | 400,000 | 359,730 | |
| 合 計 | 22,738,960 | 22,481,000 | 257,960 | |

支出の部

| 科 目 | 決 算 額 | 予 算 額 | 増 減 | 備 考 |
|-------------|------------|------------|---------|------------------------------|
| | 円 | 円 | 円 | |
| 1 委員会及び式典諸費 | 1,312,975 | 1,300,000 | 12,975 | |
| 2 20年史編纂費 | 615,985 | 600,000 | 15,985 | A5版 395頁 |
| 3 記念会館建設費 | 20,810,000 | 20,581,000 | 0229,00 | 建築費18,600千円(含設計料)設備費 2,210千円 |
| 合 計 | 22,738,960 | 22,481,000 | 257,960 | |

これに総務課扱い六五〇名分六四九、二〇〇円を合計すると同窓生による寄付金総額は二、七六〇、三二八円となり、二十周年委員会寄付金総額の四八・二％に達しました。

②二十周年記念事業委員会決算
二十周年記念事業資金には関係農業団体、同窓生、在学生父兄等による寄付金農林省および茨城県の施設補助金が当てられました。その収支の内容は右表の通り

りです。また寄付金の団体別内訳は、中央団体関係五三〇、〇〇〇円、都道府県団体関係一、四三九、〇〇〇円、市町村団体関係三六二、〇〇〇円、同窓生二、二四五、四八三円、在学生父兄一、〇四八、〇六一円、個人または預金利息等九六八、四六円でした。

五、記念植樹
二十周年を記念して、三期大山浪雄(農林省林業試験場九州支場勤務)氏よりス

ギン〇〇本、テグマツ〇本、クロマヤシ〇三本の奇贈をいただきました。ツ三〇本、アメリカカヘデ五本、タイワシカヘデ三五本、一三期増山輝雄(茨城・植林造園業)氏より、メクセコイヤ一本、深作哲太郎(元鯉淵学園助教・現在茨城県林業試験場場長)氏より、ヒマラヤシ〇三本の奇贈をいただきました。スギは県道沿いに並木として、ヒマラヤシ〇三本は記念会館前に、その他も広い構内の各所に場所が選定されて記念樹として植えられました。

「同窓会々員名簿」の発行

予 約 募 集

現在の名簿は昭和四十年十月に発行したもので、過去三カ年間にかなりの住所変更があり、また住所不明者もかなり生じたため、利用に不便を感じるようになりました。そればかりでなく、その後新会員が一、一〇〇名余も加わったことでもありますので、次記により新しい名簿を発行することになりました。

鯉淵学園旧教職員、鯉淵学園同窓会会則、索引とする。

頁数 約二〇〇頁
発行予定日 昭和四十三年九月一日
予約単価 五〇〇円(送料 会負担)
予約受付締切 昭和四十三年八月十五日

様式 A5版
本文は支部別に 卒業期、氏名、住所、職業または勤務先を記載する。索引は従来の期別を改め、アイウエオ索引とする。

内容 一〜三期各卒業生(通教卒も含む)、および各科在学生、特別会員、名簿は予約以外に沢山印刷していただき、会員の請求にいつでも応じられるようにしておきたいのですが、目下一般会計赤字につき、予約部数以上には印刷できませんので、希望者は必ず前金で予約下さい。

なお、会員名簿は新入会者に無料配布

しておりますが、入会金未納者(通教卒一〜三期生の一部)には配布しかねますので、至急入会金を納入下さるようお願い致します。

住所等の変更連絡のお願い

前記しましたように、最近転勤、転職等による住所、職業または勤務先の変更および市町村合併等による町名、村名等の変更がかなりあり、名簿が訂正されていないために事務連絡および会員相互の通信に大きな支障をきたしております。このことについては、各県支部長に名簿を送り照合方を依頼しておりますが、最近三、四年間の該当者は大至急事務局まで御連絡下さるようお願い致します。

三期生(今春卒業)にお願い

二三期の諸兄には、三月一日同窓会入会式に際して、卒業後の住所、勤務先、職業を事務局までお知らせ下さるようお願い致しましたが、いまだ連絡のない方が相当あります。連絡いただけませんか同窓会名簿の該当方所が空欄になりますので、大至急ご連絡下さい。

住所不明者

過去三カ年間に住所不明者が非常に多くなり、会員相互の連絡、支部活動、本部からの連絡に大きな支障をきたしております。次に住所不明者を掲載致しますので、現住所を御存じの方は七月三十

一日までには是非事務局へお知らせ下さい。

【1期】赤木正、西能忠二、矢崎数郎、山田茂、長谷下歳、本庄英一、副井檢久、塩田昂久。

【2期】阿部武夫、後藤弁吉、上藤泰治、柴山(黒川)善吉、井上義明、石山真、遠藤三四郎、鵜飼義司、北山勲、北島隆、佐々木喜通、福島毅、浜田茂徳。

【3期】大島健一、安田善彦、上田貞雄、稲森郁郎、杉沢泉、田吹行一、小島昇治、田村稔、杉山嘉市、星野(本間)典雄、山谷昭和、山本寿和、安達和夫、江頭茂喜、古賀邦亮、徳永源重。

【4期】奥山隆治、林徳彦、鈴木和典、瓜生俊二、甲斐希俊。

【5期】山口俊、島田喜世志、湯川純之助、高田(上野)芳寛、加藤信二、横田茂満佐。

【6期】小野寺忠夫、水元照男。

【7期】今野幸益、山崎道夫、赤井幸一、古川好男、田中(井端)秀一、木野奨、石寺不二夫、熊田勲。

【8期】山口進、川原義一郎、日野原嘉六、柳野次男、西門登、桜井聡男、加藤正三、高野信悦、金高敏敏、瀬原稔威男、新宮治男。

【9期】佐藤重昌、菊池精一、田中貞雄、藤田司郎、長尾友喜、尾口武志、山之内

忠男、山口芳信。

【10期】広瀬祐一、野沢俊子、甲高博雄、小崎博、細谷林、高橋武夫、西村璋三、菊池(藤田)芳子、今井定彦、五十嵐正夫、西止照、岡一郎、永田耕作。

【11期】浦山義男、川添杉男、藤代(西田)純一郎、小島好文、中村泰昭、平山(中川)サヨ子。

【12期】中島友市、松井隆、加藤秀明、服部政明、正木明、吉田(長井)美美代、【13期】柿川武司、川久保勝彦、寺戸恭治、山口和歌、池田勝夫、柴田賢一、近見(石川)助一。

【14期】桑野武、山田昭良、三浦(三條)美津子、高根努一、塚田豊、柳沢祐夫、田中茂、永吉三雄。

【15期】森友重勝、折戸豊、山下益弘、

湯浅紀久子。

【16期】島村衛、惣子利善信、本池弘文、足立紀夫、水永文隆。

【17期】樋上晃、浜本勲男、玉城(照原)千代子、成田正幸。

【18期】佐藤勝男、本山悟、砂川昌公。

【19期】小野武、三浦礼子、宮本和江、西岡幸雄、東京子、松園道生、溝口道寛、小林良平。

【20期】原尚、仙石晃。

【21期】岡本嘉明、末益義輝。

【通1期】酒井東吾、中島和二郎、上村源司、松本久夫、東安明、大脇慶三、白山正秋、坂口忠明、松本三好、平崎勇雄

【通2期】中村勉、瀬戸口勉。

【通3期】行田吉也、脇村光夫、原要。

支部だより

山形県支部置賜地区会

十三期 堀越亮二

昨年十一月の同窓会大会も大盛会であったとのこと、同窓会報で拝見致しました。私達山形県人は仕事の都合で学問までゆかれなくとも、是非口時を同じくして集まり、先輩、後輩の別なく想い出や現況等を話し合おうと軽い気持で、先ず

置賜地区の皆さんに呼びかけ、その中心地である赤湯温泉に場を設けました(十一月二十三日午前十一時・鯉湖時間廃止運動は今もって突ってはいないようでした)同窓生一二名中八名出席致しました。工藤泰治氏(2)は音信不通、北山利

三氏(贊)は都合により欠席された。集まった方々は口々に残念とのこと、次回には是非出席下さるよう各します。小坂利作氏(11)は当日同僚の結婚式に参列につき欠席、米野弥寿男氏(14)は冬期分校開校日で欠席されました。特に竹津氏(6)が残念がっておられた。

一番乗りは小松武一郎氏(11)と舟山忠芳氏(19)が元氣な姿を見せてくれた。

小松氏は徳川で自営、農協青年部役員として活躍中。羽城集中東海で被害にあったとか、心からお見舞い申し上げます。お父さんは農協の副組合長をなさっておられ、私は大変お世話になっていきます。舟山氏はその農協(飯豊町)の営農指導員として、肥料推進部落座談会等で頑張っておられます。

次に大変苦勞なされた竹津氏ですが、現在中学校の先生をやっておられます。

平(高世)一三氏(9)は置賜北部農協の審査部長をしておられます。仲々計

数的にうるさ型です(懇親仕込みも多分にあります)。加地正幸氏(16)は引越後の多忙を極めていた時電話呼出して出席してもらった。高埴町役場に勤務しています。



山形県青森地区支部会 (前列左側より平、竹津、酒藤、小松 後列左側より畑越、河野、加地、舟山)

河野勝氏(22)は、本年度農機具系統扱い全国一位となった同四町農協で、営農指導員をやっています。

須藤登道氏(11)は、米沢市長協勤務

当夜は宿直であったが、同期生小松氏からの電話呼出して出席せざるをえず、宿直を他の職員と交代しての出席でした。私は十三期の増補第二です。学園卒業後山形県経済連に勤務しております。今回同窓生に集ってもらうための臨時世話を致しました。

集ってもらった主旨について説明したところ、全員四十三年十一月二十三日に第二回目の集まりをしようということになりました。その後お酒を充分飲み、話から歌へと楽しい一日でした。

なお、山形県支部会開催について畑越氏は、後便で「日時等について県内同窓生の意向を問い合わせ中で、本年中には是非実現したい」旨申しておられました。

茨城県支部会

四月二十日、竣工なったばかりの側溝学園新館一番教室において開催されました。会は午後一時に始まり、まず総会、引続いて懇親会があり、四時に閉会となった。

出席者は20・21・22・23期の若い層に片寄り、またマンモス隊(会員三七〇余名)にしては少なく四二名でしたが、学園教職員二名が参加して総勢五三名となり、他県にはみられない盛況となりました。

福島県支部会

四月二十日、二十一日の二日にわたり東山温泉鳥一別館で開催されました。当日は事務局員互に仕事の都合つかず、出席できかねましたが、風の便りでは非常に盛況であったとのことでした。

一九期生会 東京で開催

長い間待ち望んでいた我が十九期生会は、去る四月二十八日(日曜日)東京新宿の「三福会館」で開催されました。この期生会、本来ならば昨年中に開く予定であったのですが、発起人の多忙その他

同期生間の連絡の不都合により、今回に至った次第です。

我々十九期生は、学園を出て今年で五年目を迎えた状態ですが、学園教育の基本方針にある「実践力、科学性、人

間性」をそなえた同志の対社会における活動のほどを交換し、明日の仕事のほげましとするべく一堂に会したのです。

出席率は時期的において各地の農協総会、人事移動、結婚等により、同期生一〇二名中二名の結果に終りましたが、色々の悪条件の中に、これだけ出席して下さった皆様に対し心より「御苦勞様」を申し上げます。

まず最初に顔を出したのが菊池君、遠いところ本当にご苦勞様、続いて市根君「オッ……どうだい」「ウン、まあまあ」といった調子。正午過ぎに大久保駅に続々到着、午後一時には出席予定者全員揃い、閉会の後討議に入るも簡単に処理され、おまらかな懇親会に入った。

歌い笑わせ、飲み、食べる。みな五年前と然々変わりない。職場の紹介、はては勤務先の宣伝まで飛び出しました。

出席者を紹介すると、菊池博美（岩手・経済連）、宮本和江（茨城・生活改良普及員）、守谷芳次（茨城・農業改良普及員）、服部正樹（茨城・鹿島特産指導所）、ト部泰郎（千葉・林業試験場）、鈴木洋子（千葉・農業）、鈴木信子（千葉・農業）、市根敏孝（千葉・日東興業区）、平山力（東京・丸新青果区）、加治克志（東京・丸新青果区）、小林良平（東京・農林漁業金融公庫）、棚谷厚

生（埼玉・日東興業区）、田屋肇作（東京・関東農政局）、近藤健明（石川・北陸農政局）、川崎茂司（香川・信用連）、武田邦雄（愛知・東浦農協）、駿丸義広（愛知・東浦農協）、水上雅雄（愛知・常滑農協）、加藤耕寿（鳥取・共済連）

外に浜野耕平（18・選科茨城・農業）黒川昭昭（20・東京・丸新青果区）、大石元（23・東京・丸新青果区）以上三名は、期は別ですが同席願いました。

当日出席できなかった奥田博子さん（鳥取）より電話で「都合で行けずご免なさい、元気でやっていますので安心の程。皆様に宜しく御伝え下さい。——以下略」。また、升田文夫氏（北海道）より「農業発展のために頑張っている」、山田俊雄氏（北海道）より「毎日元気でやっている」と手紙がありました。

また、情報により結婚された者を紹介しますと菊池博美、高根（家木）久野、海老沢（早川）富美子、守谷芳次、斎藤（植木）信子、井上嘉保留、井上（奥田）正弘、駿丸義弘、竹村洋一の諸氏です。

なおこの席で次の二つを決定しました。

- (1)地区代表の選任
- 同期生間の連絡を密にするため、地

区代表を選びました。宜しく御協力下さい。

北海道・谷口紀美男、東北・菊池博美、北陸・近藤健明、関東・平山力、東海・駿丸義弘、四国・川崎武司、中国・加藤耕寿、九州・原田健二、沖縄・新垣盛光。

(2)四年ごとに開くことになりました。

次回は名古屋で、駿丸義弘君、代表発起人で諸事務を担当してくれることになりました。宜しく御願います。

会計報告

収入 会費三三、〇〇〇（二十二名分）一、五〇〇

支出 料理御飯代一三、九〇〇、ビール、酒六、八五〇、通信、ハガキ印刷費五、〇五〇、サービス料、税金、場所代五、一九〇、合計三〇、九九〇円 残金二、〇一〇円

残金は当日会場にて「同期生名簿作成」に当てることになったのですが、記念撮影をしたため、その費用に当てますので、誌上をもって譲承願いたく御願います。

この「期生会」も第一回だけに終わらず第二回三回と四年ごとに続けていくことになりました。今回出席出来なかった方は是非第二回に出席下さい。次回は夫婦同伴大歓迎のことです。

に御精励下さい。

第一回十九期生会発起人代表

平山力

昭和四十二年度

卒業状況

去る三月一日第二三期生の卒業式が行なわれました。

卒業者数は農業科七〇名（Aコース五一、Bコース一九）農業協同組合科三八名、農村生活科四二名で合計一五〇名、修了者数は専攻科一名（農業協同組合）

23期卒業生就職状況調査（本科生） 昭和42年5月10日

| 職業別 科別 | 農業自営 | 団体職員 | | | 公務員 | その他 | 小計 | 教育機関 | 民間会社 | 海外 | その他 | 合計 |
|-----------|------|---------|---------|----|-----|-----|----|------|------|----|-----|-----|
| | | 農連 協 | 単協 位 | 小計 | | | | | | | | |
| 農業科 | 33 | 3 | 16 | 20 | 2 | 1 | 4 | 2 | 1 | 4 | 6 | 70 |
| 農協科 | 4 | 9 | 13 | 21 | — | — | — | — | 7 | 1 | 5 | 38 |
| 生活科 | 15 | 2 | 15 | 17 | 9 | — | — | — | 1 | — | — | 42 |
| 合計 | 52 | 14 | 44 | 58 | 11 | 1 | 13 | 2 | 9 | 5 | 11 | 150 |

選科一名(園芸)、特別選科(今年度より自営者コースと改称)一六名で合計一八名、総合計一六八名を社会に送りだしました。それぞれ希望に胸を膨らませて二年あるいは一年間の想い出の学舎を巣立ってゆきました。

卒業式後、同窓会入会式が行なわれ、会長、副会長より「それぞれのところに落着き次第、各自の属する支部長に連絡し、一人ぼっちにならぬよう積極的に支部活動に参加されたい」旨要望されました。

各県支部長には、その後同窓会新入会員名簿をおとどけ致しましたが、農閑期に入り、またサラリーマンの夏期ボーナスでも入りましたら、支部会を開催して互に親睦を深めあっていたらと思えます。

なお、教務課学生係でまとめた二三期生の就職状況は前表の通りです。

昭和四十三年度

入学状況

新入生の募集については、例年同窓生諸兄に多大の御協力をいただいてまいりましたが、今年度も多数の応募者を推せんいただき、関係者一同大いに感謝しております。今年度の入学問合わせ数は五三七、願書受付数は四三三と、昨年を若干下まりましたが、例年に比し質がよく互に学力が接近していたため、選考委員の先生方は選考に当たって非常に

苦勞され、嬉しい悲鳴をあげておられました。結局、合格者は一九一名、入学者は一八六名となりました。その内訳は次表の通りです。

その結果学生総数は三三一名となり、広い学園のどこを歩いても学生がいっぱい、特に今春竣工した大教室(六〇坪)、中教室(四八坪)はいずれも一机三人掛で、ようやく収容しているありさまです。今年から六カ年計画で男子寮が鉄筋二階建に改築されることになりましたがさらに早急に教育施設の整備拡充が望まれています。

昭和43年度入学状況

| 科別 項目 | 農業科 | | 農業協同組合 | | 農村生活科 | | 自営者コース | | 合計 |
|----------|-------|------|--------|-----|-------|----|--------|---|-----|
| | 農業コース | 科コース | 農同 | 協同 | 専攻 | 専攻 | コース | ※ | |
| 願書数 | 145 | 60 | 95 | 114 | 2 | 17 | | | 433 |
| 合格者数 | 53 | 35 | 44 | 44 | 1 | 14 | | | 191 |
| 入学者数 | 50 | 34 | 43 | 44 | 1 | 14 | | | 186 |

※自営者コースは茨城県委託生

久米教授転勤さる

本学園畜産担当の久米小十郎教授は、去る三月五日付退職し、酪農大學農業経済学科の教授として赴任されました。

先生は昭和二十四年助教として赴任され、三十四年からは教授として畜産の講義を担当してこられる一方、三十二年からは主畜農場長、三十六年からは酪農場(主畜農場を改称)長としてその運営育成に当たってこられました。

酪農場については、会報第七号にも掲載致しましたように、三十年頃までの杉革牛舎を中心とした農場とは見違える

程に整備され、対外的にも立派なものとなりました。特に先生が養賢堂発行「畜産の研究」の一三巻一号〜一五巻九号に発表しておられる「畑作地帯における酪農場の運営と技術」は、学園酪農場において実践されたことを理論的に裏づけし

体系化されたものですが、その功績は学園の内外を問わず高く評価されています。

昨年九月農民教育協会、学園を含めた新機構が発足し、園芸農場、酪農場を含めた農場課長に任せられ、今後さらに

大きく期待されていたところでした。

しかし、先生とはこれであつた縁が切れたわけではなく、四月からは嘱託教授として時々御講義不さることになっておりますし、卒業生にとっては恩師として永くその教えを希うことができるはずであります。

先生の酪農大學における御健闘をお祈りしたいと思います。なお新住所は次の通りです。

068-01 北海道江別市西野幌五八二
酪農大學農業経済学科

人事移動

退職

岡崎源次郎 臨時職員 42・12・31
大藤 大吉 職員 43・1・61
久米小十郎 教授 3・5
桜井 和子 助手 3・31

採用

内藤 大吉 嘱託職員 43・1・17
久米小十郎 教授 4・1
平野 修身 臨時職員 4・1
杉山 貞 教授(畜産) 5・1

任用

石橋 幸雄 農場課長 43・3・5
桜井 昭利 一級技師 4・1

「中央協同組合学園」

学園創立二十周年記念事業資金応募状況

問題について

中央協同組合学園（以下組合学園）設立については、かなりの論議はあったが昨年十一月の全国農協大会で採択された。早速四十四年度発足を期して幹事会、統いて事務局が全中に設置された。

中央学園設立については、昨年八月七日の日本農業新聞紙上に協短大と鯉淵学園を吸収するという構想のもとに検討されているとして公にされた。その後協短大学生及び職員の一部による企業内教育、地方移転を内容とする組合学園設立反対運動、農民教育協会内部の連絡不足による新聞記事に対する抗議などがあってからは、組合学園は今後の農協のあり方の上に立って、そこで必要とする資質をもった職員の養成および再教育を目的として設立するもので、始めから協短大及び鯉淵学園の吸収を前提として考えているものではないとして説明されている。したがって農協団体の主体性において組合学園ができた上で、三者の合併が考慮されるものと理解される。

農民教育協会は、大綱において鯉淵学園の本科の教育内容が包括的に考慮されるならば、合併してもよいという態度をとっている。組合学園の教育内容いかによっては、合併しないこともあり

うるわけになる。同窓会ではそんな場合今後の協会財政のことを心配して、二月十六日和田、桜井両副会長に山添理事長と会談していただいた。理事長の話の要旨は、組合学園は農協資金によって設立されるのだから、職員教育を看板とするのは当然である。教育内容は今後の農協のあり方から当然鯉淵学園的なものが相当盛り込まれることと信じている。そのため学園教育資料は全て全中に提供してある。農協連役員は協会の理事でもあり、協会の財政的弱点、鯉淵学園教育のことを充分理解している、ということでした。

前述のことがあって、その後の発表はひかえられておるようですが、三月以来組合学園事務局、中金幹部が数回にわたる来園、学内見学や懇談をされてゆかれまして、設置場所も東京、埼玉、神奈川県、茨城（牛久・学園）と検討され、過日の農協総会で設立資金三億円余が可決されたことから、案もかなり具体化しているものと察せられます。

成案の発表は七、八月と予想されますが、同窓会はその発表をまって組合学園に対する態度を検討するべく待機しております。

昨年十一月の同窓会大会の決定にもとずき、十二月七日には特別募金趣意書をまた二十三日には未応募者に対して督促状を発送して、会員諸兄弟の御協力をお願いして参りました。大会後事務が間にあわず、書類発送が大変遅れたにもかかわらず、年末年始および、二月にかけて多数の応募をいただき、執行部一同ただただ感謝しております。

その結果四十二年十月一日と四十三年四月三十日間の同窓会総務部あつかいの応募額は三一五、三三五円となり、総応募額は一、八八四、四八三円、また学園総務課あつかい（通教卒・同在学生）六四九、二〇〇円を合わせると、卒業生、在学学生総額は二、五三三、六八三円になります。

以下前例にならない四十二年十月一日と四十三年と三月三十一日間に応募下さった方の氏名と金額を掲載致します。

- 北梅遣 福家正直（9・一、五〇〇）、
- 矢作武雄（通3・五〇〇再合計一、五〇〇）、
- 石川義雄 17・一、〇〇〇、河上良治（通2・八〇〇）、大西繁松（16・一〇〇〇）、谷越耕三（17・一、〇〇〇）
- 三品賢一（19・一、〇〇〇再合計二、一〇〇※）
- 岩岸 大洞俊（11・二、〇〇〇）、鷹野武（4・七〇〇再合計三、七〇〇※）、

- 菅原東（17・五〇〇）、佐々木羊三（7・二、八〇〇）、五島隆俊（9・一、五〇〇）、芹沢孝之（3・二、〇〇〇再合計四、〇〇〇※）、斎藤和子（21・二、〇〇〇再合計二、五〇〇） 宮城 菅原源吉（8・一、〇〇〇）、後藤典（通3・五〇〇再合計一、五〇〇※） 秋田 小西三治（10・一、五〇〇再合計二、八〇〇） 浅利昭（2・一、〇〇〇）、佐野和男（7・一、〇〇〇）、吉田茂俊（4・二〇〇〇） 山形 黒田勝利（14・一、〇〇〇）、榎谷精治（8・一、五〇〇再合計三、八〇〇※）、保科周三（16・一、〇〇〇再合計一、五〇〇※） 福島 松尾齊昭（15・一、五〇〇）、酒井信子（21・一、〇〇〇再合計一、五〇〇）、根本誠（9・二、〇〇〇）、前田幸徳（15・一三〇〇再合計一、八〇〇）
- 茨城 萩原耕（2・五、〇〇〇再合計一五、〇〇〇）、甲斐次男（21・八三五再合計一、三三五）、及川博（9・一、五〇〇再合計三、〇〇〇）、栗原満史（8・一、〇〇〇再合計三、五〇〇※）、中村幸子（10・一、〇〇〇）、秋場ふじ（20・二、〇〇〇再合計二、二〇〇）、青川昭雄（11・一、〇〇〇）、鈴木理志（5・三、〇〇〇再合計五、〇〇〇）、宮本浩三（1・五、〇〇〇）、海老沢正一（8・一、八〇〇）、渡辺正信（7・一〇、

故工藤昭博氏遺児

育英資金

徳島県支部で計画

工藤(谷岡)昭博(二期)氏は、去る五月七日直腸ガンのためにおなくなりになりました。

工藤氏は学園卒業以来、徳島県において農業改良普及員として農業の進歩改善のために一身を投じてこられました。まさに日本の普及事業と共に苦勞してこられたわけで、普及員としてはベテラン中のベテラン、県では農業の転換期に際し普及職員の幹部として一層の活躍が期待されておりましただけに、その死は非常に惜しまれております。

御遺族は奥さんの盛子さん、子供さんの耕信(高二)、信仁(中二)の両君とおばあさん(八十才)の四人です。一家の大黒柱を亡くされ、二人の子供さんとお年寄をかかえた奥さんの今後の御苦労が思いやられます。

そこで、現在県農業改良課および農業改良普及員有志と学園同窓会支部で、遺児育英資金を計画募金しております。

一口 二〇〇円、締切 六月末日

送先 徳島市万台町 県庁農業改良課

上田 忠宛(四期生)

同窓生には趣意書をお送りできませんが、千内程度期待しているとのことです。多数御賛同下さるようお願い致します。

学園のテレビ放送

去る四月二十八日には「農協ニュース・新しい農業」の中のカメラロボで鯉湖学園の若い力が紹介されました。

今度はNHKで取材にいくことになりました。五月二十八日打合せ、六月四日七日ロケ、七月一日(月)、四日(木)八月二十九日(木)教育テレビで二〇分間放送の予定です。

小学校五年生の社会科教材用として放送されますが、題は「農業の新しい手」です。主に学生の学習状況、寮生活およびクラブ活動の様子、学生諸君の将来の農業に対する夢、卒業生の活動状況などについて、多角的に取材される予定です。是非御覧いただき、感想などお寄せ下さい。



事務局だより

昨年十一月に事務局を引継いでから早くも半年を経過致しました。この間、鯉湖学園二十周年記念事業資金の特別募金および追加募金依頼、同窓会報第八号の発行、学生募集協力、以上諸文書の発送事務、二十周年記念事業ならびに資金募金のとりまとめ、同窓会名簿の原稿整理中央協同組合学園問題研究会および山添理事長との懇談会、一般事務を中心に仕事をこなしてまいりました。

この間学園には通信教育スクーリング講習所協議会 甲信越関東ブロック学生研究発表会、卒業式、二十周年記念会館竣工式、入学式等々の諸行事が相継いであり、事務局員は一般教育活動、教務事務、農場運営のかたわら、同窓会活動を行なってきたところで、いずれも皆様方に満足のいたるだけの仕事ができ、おらず、甚だ申し訳なく思っております。

しかし、いずれも学園の発展、同窓会員の福利厚生、ひいては日本農業の発展につながる重要事項ばかりと、時間を越感して頭張っております。これまでになしました事業につきましてはそれぞれ項を新ためて御報告致しましたが、今後に残る問題として同窓会名簿の発行、中央協同組合学園問題があり、さらに会員諸氏の絶大な御協力をお願いしなければなりません。中央協同組

合学園については、主体が全国農協中央会にあり、また複雑な事情もありますので、会長、副会長の高い段階を中心に研究していただき、会員に連絡し意向をまとめてゆきたいと思っておりますが、当面は同窓会名簿の発行に全力を注ぐ予定でおります。

それにつけて、同窓会の財布の現状は心もとなく、会費の納入について格段の御協力をお願いしなければなりません。当面名簿発行費(印刷費四〇万円、名簿原稿整理費および名簿送料合せて一五万円)五五万円を必要としていますが、現在手持現金は二万余円しかありません。

会費の納入については、お会いした方から「つい忘れてしまいました」とおうかがいしますが、この便を手にとられましたら、直ぐおとまわしにしないで左記金額を御送金下さるようお願い致します。

名簿予約申込代 一、〇〇〇円
合計 一、五〇〇円
会費納入者は名簿代 五〇〇円
二十周年募金がすんだら、今度は会費と、事務局からの連絡はいつもお金お金で甚だ恐縮に存しておりますが、何分にも同窓会の現状は以上の通りですので、よろしく御理解の上御協力のほど重ねてお願い致します。

(後記)

次回会報発行は十二月一日の予定です。投稿をおまちしております。